

学校教育目標	[心をあわせ あかるくのびる 北綱の子] ・自ら問題を発見し、解決することができる子を育てます(知) ・自分も友達も大切にし、思いやりのある心をもつ子を育てます(徳) ・心と身体をきたえ、安全への知識と態度を身につけ、自分や人の生命と身体を大切にすることを育てます(体) ・北綱島のまちに学び、まちに生きる子を育てます(公) ・様々な社会の変化に対応し、未来をひらく子を育てます(開)						
	学校概要	創立 48 周年	学校長 福島 豊	副校長 板東 文彦	2 学期制	一般学級: 18	個別支援学級: 7
		児童生徒数:	549 人	主な関係校: 日吉台中学校 北綱島特別支援学校			

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	〇〇中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
＜自分の考えをもち、対話を通してよりよく問題解決を図る力＞ ＜つながりを考え、合意形成する姿勢＞ ＜伝え合うことで自分の考えを深化させる力＞ ＜主体性・積極性＞	日吉台中学校 北綱島小学校 日吉南小学校 日吉台小学校 矢上小学校 箕輪小学校	自己のよさに気づき、友達のよさも認めあえる子【笑顔】 進んで他者と関わり合い、地域に生きる子【あいさつ】 ブロック内小中学校9年間の連続性のある教育の推進 基礎・基本を身に付け、伝え合い、学び合う児童生徒の育成を目指した小中一貫教育推進ブロックのカリキュラムマネジメントの運営・評価・改善を図る。そのために、小中一貫教育推進ブロック内の公開授業、児童生徒交流、教職員の協働で小中が連携し連続性のある教育を推進する。

中期取組目標	○「チーム北綱島小」として「充実した教育が行われる優秀な小学校」(開校宣言より)を目指し活力と魅力ある学校づくりに取り組みます。 ○学校評価アンケートを重視し、児童・保護者・地域が「北綱島小学校に通ってよかった」「地域に北綱島小学校があってよかった」と思えるような教育活動を展開していくとともに、児童や保護者の意見を大切にし、カリキュラムマネジメントを毎年行っています。 ○北綱島特別支援学校との交流及び共同学習を通して、相互理解が深まる活動に取り組みます。 ・「教科分担制」を導入し、学級の壁を越えた「チーム指導」を目指す。 ・「主体的で協働的な学びの充実」(知)「心をあわせる」挨拶・あたたかい心(徳)「体力向上・食育」(体)を目指した教育活動を展開する。 ・地域や家庭と連携し、災害を中心とした様々な危険から身を守り、自助・共助の態度を養う安全防災教育の充実を図る。また学校運営協議会等を通して、学校・家庭・地域が共通理解を図り開かれた学校づくりを目指す。(公) ・安全防災教育を中心に探究力・課題解決力を育み、持続可能な社会を担う児童の育成を目指す。(開) ・教職員の働き方改革を進め、風通しが良く働きやすい環境を作り、教員不足解消に一役担える環境を目指す。
--------	--

重点取組分野		具体的取組
知	生きてはたらく知	①授業改善を進め「講義型授業から対話的授業」をキーワードに、課題解決型の学習や協働的な学びを充実させる。 ②ICTの有効活用として、個に配慮した学びの充実、調べ学習、主体的で対話的な学びを推進していく。 ③学状のデータを分析し、個々に応じた学びを意識した授業づくりを推進する。またチャレンジルームの有効活用もさらに図っていく。
担当	学力向上・重点研	
徳	人権教育	①特別支援学校との交流や地域の方々との交流、ペア学年での活動を通し、多様な人とのかかわりを多く経験することで、自分を知り、違いや他者を受け入れる気持ちを「心を合わせる」をキーワードに育む。 ②道徳科では道徳的価値観を学び、特別活動では子どもの声を学校生活に反映できるようにし、社会性を育む。 ③児童の最大の教育環境は教職員であることを意識し、「人権チェックシート」で自らの人権意識を高めていく取り組みを行う。
担当	人権・福祉・道徳	
体	健康教育	①体力テストのデータを分析し、体力向上を目指した活動に取り組むようにする。 ②担任、専任、養護教諭や栄養士と連携し「基本的生活習慣の確立」をキーワードに「早寝早起き」「バランスの良い食生活」等の生活習慣を安定させる。
担当	体育部 保健室 栄養士	
公開	ESD推進	①安全防災教育を軸にESDや教科横断的な視点を持ち、児童の主体的な活動を大切にしながら安全防災等の課題解決に向けた取り組みを行い地域に発信していく。 ②安全防災にかかわる訓練と、知識理解や資質能力を高める学習、地域連携を推進し、災害を中心とした様々な危険から身を守り、自助・共助の態度を養う安全防災教育の充実を「安全防災なら北綱」をキーワードに図る。
担当	地域連携部 安全防災教育部	
いじめへの対応		①「すべての児童が安心できる学校」をキーワードに児童の変化を見逃さずに対応できるよう、教員の資質の向上、チーム力の向上を研修などで図っていく。 ②月1回の定例のいじめ防止委員会に加え、事案発生時にはすぐにいじめ防止委員会を行い、担任だけでなく、学年・専任・管理職などで組織的に対応する。 ③スタディーナビを有効活用し、児童の気持ちの変化を見逃さないようにする。いじめアンケートやSCの相談、「あのねタイム」などでの担任への相談ができるような仕組みづくりと、児童と教員との関係性を構築していく。
担当	児童指導部	
人材育成・組織運営(働き方)		①「チーム北綱島」をキーワードに、学年、級外、主幹、管理職とチーム力を向上させ、一人で抱え込むことのない、助け合える雰囲気大切に。 ②働き方改革として⑦時間外45時間⑧19時までの退勤⑨年休取得10日を目標に教職員の業務軽減(ICT有効活用等)に向けた取組を推進する。 ③働きやすい職場のアンケートを教職員からとり、トライ&エラーで試していく。(定時退勤日・職員室内のトークスペース・すぐるの有効活用等) ④キャリアステージを意識した役割を、1on1ミーティング等で意識しながら業務に当たっていく。 ⑤メンターチームにおいて経験の浅い教職員の指導力向上並びに資質向上に向けた取り組みを充実させる。 ⑥不祥事防止(特に安全、個人情報等)に向けた研修を実施するとともに、組織的対応ができるシステムづくりを行う。
担当	教務部・メンター	
児童指導		①北綱スタンダードの決まりの意味を理解し、主体的に学校生活を過ごせるようにする。またよりよい学校生活を過ごすためにどうすればよいのか、児童が考え、発表する機会を持つ。 ②北綱っ子3か条「進んで挨拶 時間を守る 人の話をしっかり聞く」をキーワードに学校生活を過ごせるような指導支援をしていく。 ③日常的な情報共有、Y-Pアセスメントを活用して支援検討会を行い、児童理解や支援指導を組織的に行う。
担当	児童指導部	
特別支援教育		①児童の情報共有を丁寧に行い、個に応じた適切な支援を進める。「氷山モデル」をキーワードに一人ひとりの背景や特性の理解を進める。 ②児童自身の思いや願いを聞きながら、児童の実態やニーズの多様化を踏まえ、社会の様態・ニーズも考慮し、個別的教育支援計画・個別の指導計画を開関係教職員で共有して、一貫した指導・支援の充実を進め、本人及び保護者との合意形成を丁寧に進める。 ③センターの機能や関係諸機関との連携、研修の実施などで、特別支援の専門性向上を図る。
担当	特別支援教育	
地域学校協働本部		①「社会に開かれた学校」をキーワードに地域や保護者とともに学校教育目標「心をあわせ あかるくのびる 北綱の子」を目指し、地域や保護者、関係機関の協力を得ながら、学びの充実や安全、環境整備を進めていく。 ②学校運営協議会の充実を図り、地域の力を借りながら学校経営の推進を図る。日々の児童の様子や姿を伝え、さらには児童の意見を伝えながら、学校課題の共有、解決をしていく。
担当	地域連携部	